交通事故のない

安全で安心な地域社会の

実現を目指して

子どもたちの安全・安心のために

「交通安全教室」のご提案

公益財団法人

小丸交通財団

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

子どもたちを交通事故から守ります！

当財団は「交通事故防止」を目的とした公益財団法人です

交通安全教室の目的

交通事故のない安全・安心な地域交通社会の実現を目指し、さまざまな交通安全活動を行っています。

その活動の一つとして、全国の小・中・高等学校で体験型の「交通安全教室」を開催しています。交通安全教室を通じて、子どもたちが交通ルールや車の危険性を学ぶことで「交通安全」の大切さを知り、交通事故の削減に繋がればと考えております。

交通安全教室

全国各地の小学校を中心とした交通安全教室を開催し、トラックの特性・危険性を体験してもらい、交通事故防止を呼びかけています。

交通安全教室 開催実績

年度	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013
開催数	55回	33回	13回	9回	13回	15回	6回	3回	6回	1回	1回
参加人数	10,347名	6,071名	1,754名	1,475名	3,995名	2,861名	1,078名	432名	942名	153名	219名

交通安全教室（屋外）

◇実施項目①

死角体験

大型トラックや中型トラックのドライバーから見えない位置

「死角」を体験してもらいます。

↓

運転席からトラックのすぐ前が見えにくいなど、頭では分かっていることも、実際に体験することで子どもたちの記憶に強く残ります。

◇実施項目②

内輪差・オーバーハング体験

大型トラックによる

・**内輪差**による**巻き込み**の危険性

・**オーバーハング**による**接触**の危険 について知ってもらいます。

↓

交差点におかれた人形を後輪で巻き込みながら進みます。子どもたちには少し刺激的ですが、内輪差の危険性が強く印象づけられます。

◇実施項目③

車の停止距離

運転手が危険に気づいたときから実際に車（トラック、乗用車、バイク等）が止まるまでの距離（停止距離）を子どもたちに分かりやすく伝えます。

↓

“車は急に止まれません”を理解してもらいます。

◇実施項目④

トラックへの乗車体験

交通安全教室（屋内）

◇実施項目①

ドライブレコーダーによる危険予測

ドライブレコーダーの映像を使用して、ディスカッション形式で危険予測について学習していただきます。

ドライブレコーダー映像①

見通しの悪い交差点での事故①

ドライブレコーダー映像②

見通しの悪い交差点での事故②

ドライブレコーダー映像③

交差点での巻き込み事故

◇実施項目②

自転車シミュレータによる走行体験

自転車シュミレーターを使用して、安全に自転車に乗るための必要なルールやマナーを理解していただき、交通安全に対する意識の向上を図ります。

報道記事

トラックの危険 加茂中生が学ぶ

福山北署が安全教室

福山北署は、福山市加茂町の加茂中で大型トラックの危険を伝える交通安全教室を開いた。近くに福山北産業団地が造成された影響で大型車両の交通量が増えると想定し、自転車通学時などの安全確保を呼びかけた。公益財団法人の小丸交通財団（同市東深津町）の共催。

全校生徒約300人が参加。大型トラックと自転車の接触事故の映像などを見て、一時停止や左側通行を守れば、大きな事故を避けられると教わった。同財団の松井智隆事務局長は「運転手とアイコンタクトを取るなど、互いに存在を知らせる工夫も大切」と訴えた。

生徒は自転車シミュレーターに挑戦。停車している車のドアが突然開いて衝突する事故などを疑似体験し、日常の中にあるリスクを確認した。3年平盛光翼さん(14)は「事故は一瞬で起きる。家できょうだいに安全確認の大切さを伝えたい」と話した。

シミュレーターの映像で自転車の安全な運転を学ぶ生徒

死角や内輪差をトラックで確認

松永小で教室

小丸交通財団（福山市東深津町）と福山西署、福山通運（同町）は28日、同市松永町の松永小で交通安全教室を開いた。中型トラック2台を用意し、運転席の死角や内輪差による事故の危険性などを2、4年生の計約220人に伝えた。

グラウンドに白線で交差点を再現。トラックを実際に走らせ、急ブレーキをかけても停止までに時間がかかることを実演した。児童は運転席に1人ずつ座り、車両の周りに置かれた人形が見えなくなる死角を確認した。

2年石田楓歩さん(8)は「交差点では道路から離れて待ち、信号が青でも右と左を見てから渡ろうと思った」と話した。

同財団は来月、同市幕山台の東朋中でも交通安全教室を開き、自転車の運転マナーなどを学んでもらう。

トラックの運転席から死角を確認する児童

トラック近くで遊ばないで

因島南小で教室 死角も確認

小丸交通財団と福山通運（いずれも福山市）は、尾道市因島土生町の因島南小で交通安全教室を開いた。2年生39人が、ドライバーの死角や交差点でトラックに巻き込まれない対策を学んだ。

グラウンドに交差点を描き、4トントラックを実際に走らせた。人形を使って巻き込まれる事故も再現。児童は運転席に座って死角を確認した。同財団の松井智隆事務局長(44)が「横断歩道で信号を待つときは道路から離れ、トラックの近くでは遊ばないで」と呼びかけた。

深水咲衣さん(8)は「トラックが近づいてきて危ないと感じたことがある。事故に遭わないよう、左右の確認もしっかりしたい」と話した。

トラックの運転席から死角を確かめる児童たち

トラックの死角 危険性学んだよ

福山 泉小で安全教室

福山市立泉小（山手町）で7日、交通安全教室があった。小丸交通財団（同市）と福山西署が主催し、2年と4年の計約90人が車窓からの死角や制動距離による事故の危険性を学んだ。

児童はグラウンドに並べた4トントラック2台の運転席に順番に座り、車体周辺に置いた人形が見えなくなる死角の広さを確認。同財団の松井智隆事務局長(44)が「車は大きくなるほど死角も広くなる。急ブレーキを踏んでもすぐには止まらないので、車のそばでは絶対に遊ばないで」と呼びかけた。

教室は同財団が全国の学校で開いている。4年菊川美月さん(10)は「運転席からはあんなに見えない場所が多いんだと驚いた。事故に遭わないよう、これまで以上に毎日気を付けたい」と話していた。

（松本輝）

トラックの運転席から死角を確かめる児童たち

最後に・・・

　私ども小丸交通財団は、子どもたちを交通事故から守るため、交通安全教室を通じてお役に立ちたいと考えております。

　交通安全教室に対するご要望には、できる限りお応えいたしますので、是非とも開催のご検討をいただきますよう、よろしくお願い申しあげます。

交通事故のない安全で安心な地域社会の実現を目指して

公益財団法人
小丸交通財団

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

The Komaru Koutsu Foundation